

広告

魚釣り

◎ 石狩随想

73

浜益川のサケ有効利用調査で入釣するアングラーは既に4千人を超え、石狩湾新港はファミリーフィッシングのメッカとして週末に数千人が楽しんでる。今年もシーズンのはしりを飾るイベントとして全道最大の釣り大会が開催されるなど、石狩市はフィールドに恵まれている。

▼幕末のころ浜益において、ロシアの南下政策の脅威に対応するため、庄内藩の陣屋が創設された。同藩6代藩主酒井忠貞公は、城下から磯まで遠かったこともあつて、武用と体力作りもかね、釣りを奨励したとのこと。殿様から、武士、町人に至るまで一緒に楽しんだ記録が残っている。今に続く「庄内の竿」は4百年余の伝統を有しており、一昨年鶴岡市より訪ねてきた「松本十郎を顕彰する会」より数振りの「竿」が市に届けられた。▼ハマシケ陣屋で、尚武の気風が薄れるのを危惧し、釣りを勧めたと、副奉行の白井久兵衛の著「北役紀行」に記されている。往時の姿を思い浮かべるのにそう難しくはない。アイザック・ウォルトン、佐藤垢石、西園寺公望、福田蘭童氏等の名著を読みつつも、悟りには程遠い私の釣りであるが、観光石狩の隠れた主役となりつつあることは確か。(市長)